

ピアノと電子音響音楽

研究発表コンサート

「ピアノ・ソロとアコースティック音楽の融合における創作の
音響・音楽表現の新たな可能性を探る」

天野知亜紀

有本千夏

成田和子

石上加寿也

落晃子

檜垣智也

葛西聖憲

2018年7月1日（日）15時開演

同志社女子大学京田辺キャンパス頌啓館ホール

プログラム

第一部

天野知亜紀 「玉響（たまゆら）」

ピアノ演奏：波多翼

有本千夏 「赤い森」 「硝子の街」

ピアノ演奏：有本千夏

成田和子 「鏡のむこう Au-delà du miroir」

ピアノ演奏：河江優

石上加寿也 「瑞雨 Zuiu」

ピアノ演奏：山田あい子

第二部

落 晃子 「Prepared Pianist」

ピアノ即興演奏：RAKASU PROJECT. (落 晃子)

アコースモニウム演奏：石上和寿也

ソフトウェアエンジニア (Max プログラム)：平野砂峰旅

檜垣智也 「響きの世界の中で」

(スケッチ2) ピアノと電子音響のために

ピアノ演奏：法貴彩子

葛西聖憲 「ピアノのための音楽 / Lamusique pour pianos」

ピアノ演奏：中野慶理

玉響（たまゆら）

タイトルの語源となった「玉響」は、勾玉同士が触れ合い生じたかすかな音、という意味を持っており、その情景から拙作の着想を得た。

今回は、ピアノ演奏と電子音響（MaxMSP を用いたリアルタイムの音響合成とアコースモニウム）によって、“揺らぎ響く音”を表現する。

<プロフィール>

・波多 翼（ピアニスト）

1993年 香川県高松市出身。

高松市立高松第一高等学校音楽科及び愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻ピアノコース卒業。

在学中より、バロック音楽から新作初演に至るまで、多岐にわたる演奏活動を開始。

現代アートの祭典である「瀬戸内国際芸術祭」「ART SETOUCHI」に、2015年より愛知県立芸術大学瀬戸内アートプロジェクトチームの一員として参加。同芸術祭を機に、新しい表現を追求する音楽集団「アンサンブル瀬戸内」を結成。現在、同楽団バンドマスターも務める。

これまでピアノを永井直子、前川款子、松野真理子、上原興隆、熊谷恵美子、吉永哲道、大野真嗣の各氏に師事。

・天野 知亜紀（作曲）

同志社女子大学音楽科コンピュータ音楽コース卒業、愛知県立芸術大学大学院博士前期課程作曲領域修了。

音と映像、鑑賞者の相互作用を意識した複合的な表現による作品を手掛け、瀬戸内国際芸術祭(2016)、奈良・町家の芸術祭 はならあと(2017)などに出品するほか、Audio Art Circus(2012-2015、大阪芸術大学)、ICSAF(2012-2014)、Musiques à réaction(2012、パリ地方音楽院)、SYNTAX 14.2(2015、ペルピニャン地方音楽院)、VOX Humana(2016、ローディ、イタリア)など国内外で作品を上演。CCMC2013,2014 入選。

「赤い森」「硝子の街」 有本 千夏

○ 曲目解説

ピアノによる生演奏と電子音響音楽の協奏曲です。
夢と幻想をイメージした組曲『夢境』のうちから2曲を発表いたします。

・ 赤い森

ここは夢か現実か。
私は赤い森の中にいた。
夕日に染まる赤。紅葉の赤。燃え盛る炎の赤。血が滴り落ちる赤。または赤い月のせいかな。
赤い、赤い森の中に、私はいた。

・ 硝子の街

透き通るような透明感。
反射し煌めく光。
地面も 建物も 空も 海も すべて硝子であるこの街はひどく美しかった。
不気味なほどに美しく、静かであった。
私が立ち入るまでは。

○作曲者略歴

1995年兵庫県生まれ。
2018年 同志社女子大学学芸学部音楽学科音楽文化専攻卒業。
現在、様々な仕事を経験しつつ音楽活動に励んでいる。

「鏡のむこう Au-delà du miroir」

ピアノと電子音のため pour piano et sons électroniques

ピアノ演奏: 河江優 / KAWAE Suguru

作曲/アコースモニウム演奏: 成田和子 / NARITA Kazuko

ピアノと電子音の2つのパートを共存させるにあたり、まず両者の関係をどのように構築するかが問題となる。

二重奏と考えればよいのかもしれないが、アコースティックな楽器と電子音の音楽的な良い関係を築くのは難しい。表現の可能性は多いがスタンダードな形式はなく、模索が続く。

今回まず念頭においたのは、ピアノのパートと電子音のパートがそれぞれの独立性を保つことである。ひとつのパートだけを聞いても、楽曲として成り立つように考えた。ピアノのパートは5つの部分からなり、連続して演奏される組曲の形式を持つ。電子音のパートは7つのサウンドファイルに分けられ、ピアノの楽譜には、再生スタートポイントが記されている。

タイトルの「鏡のむこう Au-delà du miroir」には、ピアノの音と電子音が、鏡のむこうの姿を見つめるというイメージを託した。ピアノの音からは電子音が、電子音からはピアノの音というように、鏡に映る響きが聞こえてくる。両者の音は混じり合うことなく時間を共有する。今回、電子音のパートにはシンセサイザーの Moog と Prophet の音を素材として用いた。レトロな音色の電子音である。かつて流行ったゲームであるインベーダーのサウンドを彷彿とさせるかもしれない。

河江優

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。1995年同大学大学院修士課程修了後、パリ・エコールノルマルを経て、ジュネーヴ音楽院へ留学。2000年同音楽院演奏家課程修了。第3回オルレアン(フランス)20世紀国際ピアノコンクール入賞、併せてリカルド・ビニェス特別賞受賞。ジュネーヴにてスイス・ロマンダ管弦楽団と協演するなど、フランス、スイスを中心に多数のリサイタル、演奏会に出演。現在ソロ、室内楽などの分野で演奏活動を行っている。2002年度青山音楽賞受賞。同志社女子大学学芸学部音楽学科教授。

成田和子

電子音響音楽との出会いは、1980年代にパリ国立高等音楽院で、ミュージック・コンクレート(ピエール・シェフェール)の伝統を引き継ぐ電子音響音楽作曲クラスで学んだ時である。オープンリールに巻かれたテープを切り貼りして、ステューダーのテープデッキ3台を用いてミキシングを行なった。スタジオなど制作環境に恵まれなかったため、一時期、電子音響音楽の作曲を中断し、アコースティック作品の作曲に専念する。1997年からコンピュータを用いて電子音響音楽の作曲を再開し、以後、多数の作品が日本およびヨーロッパのフェスティバルやコンサートで上演されている。音と音楽・創作工房 116(ACSM116)の運営委員として毎年、アンスティチュ・フランセ東京におけるCCMC(Contemporary Computer Music Concert)の企画開催に携わっている。また、近作の現代オペラ「YUMÉ」(フランス政府委嘱作品)の初演/再演(パリ、ランス、ツウロン)は話題を呼んだ。同志社女子大学学芸学部音楽学科教授。

瑞雨 Zuiu

作曲：石上加寿也 KAZUYA ISHIGAMI

ピアノ演奏：山田あい子 AIKO YAMADA

作品解説：

ピアノと電子音響のための作品。2018年制作。瑞雨とは、穀物を育む雨のこと。

山田あい子 AIKO YAMADA （ピアノ演奏）

愛知県生まれ。3歳よりピアノを始める。大学卒業後に広告代理店で勤務するかたわら、主に近現代曲のピアニストとして活動。ピアノサークル「Appassionato」に所属し、毎年コンサートに出演。また、スタジオルンデ主催「5月の小さな星」「4+tune」コンサートにてソロ出演ほか。またマンドリンの伴奏も務める。2009年に大阪芸術大学に編入。コンピュータ音楽、作曲を学ぶ。全日本演奏家協会主催 第14回全日本ソリストコンテストにて好演賞受賞。同受賞記念演奏会に出演。

石上加寿也 KAZUYA ISHIGAMI （作曲）

1972年大阪生まれ。幼児期からテープレコーダーで遊びながらカットアップ・コラージュ風の作品を作り始める。高校生の時にミュージック・コンクレートとノイズミュージックに出会い本格的にテープ作品を作り始める。1992年からソロライブ活動およびテープ音源リリースを開始。1994年からコンピュータと音楽プログラミング言語 Max を使用したライブ演奏および作品制作をはじめ。DR(ドイツ公共放送)での委嘱作品をはじめ、WDR(西部ドイツ公共放送)、FUTURA 国際電子音響音楽祭(フランス)、MUSLAB 国際電子音響祭(メキシコ)、SILENCE 国際電子音響音楽祭(イタリア)、ICMC 国際コンピュータ音楽会議 2015(アメリカ/テキサス)などで作品上演をおこなう。自主レーベル NEUS-318 を主宰し、これまでに100タイトルを超える作品をリリースする。現在、「親しみやすい電子音響音楽」を追求し、こどもたちを対象にしたワークショップを展開している。

Prepared Pianist

ピアノ即興演奏 RAKASU PROJECT. (落 晃子)

アコースモニウム演奏 石上和寿也

ソフトウェアエンジニア (Maxプログラム) 平野砂峰旅

曲解説

ピアノ演奏者の手足に装着された加速度センサにより、プリペアド・ピアノの音がコントロールされる。ピアニスト自身をプリペアドすることによる即興演奏パフォーマンスと、即興アコースモニウム融合の実験である。

ピアノ演奏 (即興) 落 晃子 AKIKO OCHI/RAKASU PROJECT.

広島大学大学院学校教育研究科音楽教育専攻修了。

関西地方の複数の大学で教鞭をとる傍ら、活動名「RAKASU PROJECT.」として電子音響音楽から商業音楽制作まで、幅広い活動を行うほか、実験音楽、即興音楽アーティストとの共演、ダンスや書道家、伝統音楽とのコラボなど、ジャンルを超えた幅広い活動を展開している。

近年では、各種センサーを使用したフィジカルコンピューティングパフォーマンスや、サウンドインスタレーション制作なども手がけており、国内外でのメディアアート関連フェスティバルでの出演・講演も多い。

現在、日本音楽即興学会 (JASMIM) 理事長。

京都精華大学ポピュラーカルチャー学部准教授、同志社女子大学学芸学部嘱託講師。

RAKASU PROJECT. facebookページ <https://www.facebook.com/rakasu.project/>

アコースモニウム演奏 石上加寿也 KAZUYA ISHIGAMI

1972年大阪生まれ。幼い頃からテープレコーダーで遊びながらカットアップ・コラージュ風の作品を作り始める。

高校生の時にミュージック・コンクレートとノイズミュージックに出会い本格的にテープ作品を作り始める。

1992年からソロライブ活動およびテープ音源リリースを開始。1994年からコンピュータと音楽プログラミング言語Maxを使用したライブ演奏および作品制作をはじめ。DR(ドイツ公共放送)での委嘱作品をはじめ、WDR(西部ドイツ公共放送)、FUTURA国際電子音響音楽祭(フランス)、MUSLAB国際電子音響祭(メキシコ)、SILENCE国際電子音響音楽祭(イタリア)、ICMC国際コンピュータ音楽会議2015(アメリカ/テキサス)などで作品上演をおこなう。自主レーベルNEUS-318を主宰し、これまでに100タイトルを超える作品をリリースする。現在、「親しみやすい電子音響音楽」を追求し、こどもたちを対象にしたワークショップを展開している。

ソフトウェアエンジニア 平野 砂峰旅 SABURO HIRANO

九州芸術工科大学 (現:九州大学) 大学院 情報伝達専攻 修了 芸術工学修士、関西学院大学理工学研究科 博士

後期課程修了、工学博士。ISEA (Inter-Society for the Electronic Arts)、ICMC (International Computer

Music Conference)、NIME(New Interfaces for Musical Expression)などの国際会議で音楽作品、メディアアート

作品入選。サウンドトラック制作を手がけた映像作品も国内外で受賞多数。『メディアアートの世界』(共著)

『コンピュータ音楽』(共訳)。専門分野(コンピュータミュージック/メディアアート/サウンドスケープ)

ヤマハ(株)にて業務用音響機器(主にデジタルエフェクタ)のソフト開発(アセンブラ言語やDSPのプログラ

ミング)に携わる。アーティストとしてサウンドインスタレーションやメディアインスタレーションを制作する

と同時に、ビデオアーティスト、メディアアーティストやCG作家とのコラボレーションも多い。近年は、音と

映像のインタラクションをテーマにインスタレーションやパフォーマンス作品を制作。そのためにコンピュ

ータを用い、サウンドや映像だけでなくコンピュータプログラムやインタラクティブシステムを含めた形態をと

っている。

檜垣 智也

響きの世界の中で (スケッチ 2)

ピアノと電子音響のために

Tomonari HIGAKI *Dans le monde sonore (esquisse n°2)* pour piano et support audio

2018・初演 World Premiere

電子音響パートのピアノ及びシンセサイザー演奏協力=法貴彩子

Piano et synthétiseur pour electronics = Sayako HOKI

本公演の演目すべてで使用されるアコースモニウムは、メディアに内在する音響空間を現実の空間へ放射し、音響的なレリーフをライブで空間内に施す。そして原理的に〈いつでも・どこでも〉経験できる録音音源の再生と、〈いま・ここ〉で行われる演奏行為が同時に存在している点にこの装置による演奏の特徴がある。この録音物を演奏するという倒錯、故に、アコースモニウムを演奏行為の道具=楽器として位置づけることへの疑念が生まれる。「この倒錯した音響装置は、はたして音楽を奏でる楽器たりえるのか？」私はこの問いにこたえようと2015年に学位論文¹を提出した。

近年はアコースモニウムの演奏活動に加えて、再生という手法の芸術表現としての可能性を求めはじめた。電子音響音楽ではなく映画のアコースモニウム演奏²、スマートフォンを使った再生そのものを聴衆の操作にゆだねるメディア・パフォーマンス³、10台のオープンリールテープレコーダーと映像メディアを同時に再生する展示型音楽⁴、またピアノ演奏とラジカセから流れる再生音響が一体化するようなアンサンブル作品⁵などを当代表のアーティストたちの協力のもと発表してきた。これらの活動は、音響的な空間表現の興味というよりも、むしろいつでも・どこでも聴ける音源を、いま・この〈生〉の芸術表現の場に持ち込むことが重要だった。こうして私は〈再生(による)芸術の創造性〉の可能性を見出していくことになった。

さて本作『響きの世界の中で (スケッチ 2)』であるが、こうした再生芸術の創造性へ向けられたられた興味の延長として構想した。ここでは電子音響パートを生楽器(今回はピアノ)の拡張パートとして扱わず、電子音響パートを楽器を取り巻く〈環境〉として位

1 「アコースモニウムを用いた電子音響音楽の上演に関する研究」, 檜垣智也, 九州大学, 2015

2 「眠り姫」(監督=七里圭 | 2007年公開)、「ソシアリズム」(監督=ジャン=リュック・ゴダール | 2009年公開)「サロメの娘 | アコースモニウム」(監督=七里圭 | 2015年公開)など。

3 「ドの音」(2016年制作 | ド音ピアノ演奏協力=寒川晶子)など。聴衆参加型のスマホ同時再生によるメディア・パフォーマンス作品。

4 「入院患者たち」(詩と映像と音響のためのインスタレーション | 2016年制作 | テキスト=松井茂&山本一彰、音楽=檜垣智也、映像=七里圭)

5 「家具のピアノ」(2016年制作 | 高橋アキ委嘱 | 出版: Maison ONA)

置づけた。その環境へ〈生〉としての楽器を登場させ、それらの様々な関係—並走、融解、強制、無関係、応答、追尾など—を描いた。なお本作はフランスの作家ヴィクトル・セガレンによる同名の小説(1907)を音楽化するプロジェクト(歌手、ピアノ、電子音響のためのシアター)に先立つものであるが、今回はその音楽パートの一部をスケッチとして発表する。小説の内容は本年で生誕70年を迎える再生音楽の祖であるミュージック・コンクレートの誕生を予見するものとして興味深く、このジャンルのもつ独特な狂気を、誕生のおよそ半世紀も前に見事に描いている。(檜垣智也)

[作曲・アコースモニウム]

檜垣 智也 Higaki Tomonari

愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。2002年に渡仏し、ドニ・デュフル、ジョナタン・プラジェ各氏らにアコースモニウムを学ぶ。ハーバード大学、ケルン大学、INA/GRM(仏)、Motus(仏)、Musiques & Recherches(ベルギー)、M.ar.e(伊)、釜山国際電子音楽祭、サラマンカホール電子音響音楽祭(岐阜)など世界中のアコースモニウムで演奏。主な作品に「夜の雨」(2003 | 室内楽 | 第24回アジア作曲家連盟音楽祭イスラエル大会青年作曲賞日本代表作品)、「家具のピアノ」(2016 | 高橋アキ委嘱)、「豊饒の海」(2009-2011 | 電子音楽)、「沈黙の木」(2003 | ラジオアート | La muse en circuit 委嘱)など。2枚のソロCD『Mahoroba』(2011)『囚われた女』(2015)をリリース。近年は再生の創造性をテーマに活動を展開し、「音から作る映画」プロジェクト(七里圭、2014-)、音・音楽を題材にしたワークショップ(神奈川県立近代美術館、愛知県児童総合センター、神戸アートビレッジセンターほか)、インスタレーションの制作(「入院患者たち」詩=松井茂・山本一彰、映像=七里圭、2016)、キュレーション(奈良・町家の芸術祭「はならあと 2017」)など多彩な活動を展開している。フランスFutura国際アコースモニウム演奏講習会講師(2005-現在)。Espace du son国際空間演奏コンクール審査員(2014)。現在、大阪芸術大学、同志社女子大学、相愛大学などで後進の指導にもあっている。

[ピアノ]

法貴彩子 Hoki Sayako

パリ国立高等音楽院卒業。リヨン国立高等音楽院第3課程(大学院課程)修了。パリエコールノルマル音楽院コンサーティストディプロム取得。エピナル国際コンクール入賞。フォーラム・ド・ノルマンディーにて現代曲賞受賞。第20回ABC新人コンサート最優秀音楽賞受賞。第23回宝塚ベガ音楽コンクール第1位。兵庫県知事賞受賞。NHK-FMリサイタル・ノヴァに出演。現代作品の世界・日本初演を複数手掛ける。音楽雑誌ショパンにて「明るく伸びやかな響きの持ち主で、音楽作りは知的で明晰、技術も集中力も高い。各曲の音楽的特性を描出、耳を飽きさせない演奏。(高久暁)」と評価を得る。同志社女子大学嘱託講師。

ピアノのための音楽 / La musique pour pianos

ピアノ演奏：中野慶理 / NAKANO Keiri

作曲 / アコースモニウム演奏：葛西聖憲 / KASAI Masanori

昨年、フルート・クラリネット・バイオリン・チェロとピアノのための作品を発表し、それでは今度はピアノを中心とした曲の発表会をしようという事になり、研究費をもらいようやく完成しここにたどり着いたという事です。

実際のピアノはもちろんですが、スピーカーから出る音もピアノの音です。2台ピアノで演奏してもいいのかなと思いつつ、BGM的なピアノサウンド付の生ピアノ作品もありかなと思いつつ……。

ま、どんな事になるのか少々ビクビクしながら、この文章を書いています。もしも、うまくいったらとてもラッキーです。

中野慶理

東京藝術大学附属高校を経て、ポーランド国立ワルシャワ音楽院本科を首席で卒業後、ジュリアード音楽院大学院修了。East and West コンクールに優勝し、カーネギーリサイタルホールでのリサイタル資格を得、成功をおさめる。NHK-FM「FM リサイタル」等に数度出演。五嶋みどり氏の「みどり教育財団コンサート」で五嶋氏と共に日本全国縦断コンサート（デュオ）に出演、文化庁芸術祭新人賞、大阪舞台芸術奨励賞、大阪文化祭賞本賞、音楽クリティック・クラブ賞、兵庫県新進芸術家奨励賞、神戸っ子ブルーメール賞、神戸灘ライオンズクラブ賞、三田市文化賞、他受賞多数、現在、同志社女子大学学芸学部音楽学科教授。

葛西聖憲

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。パリ国立音楽院の作曲、管弦楽法、和声およびフーガのクラスを1等賞にて卒業。現在、同志社女子大学学芸学部音楽学科教授。